

事務事業評価シート

(平成 24 年度実施事業)

事務事業名	総合計画の進行管理事業			事業コード	39
所属コード	123000	課等名	企画調整課	係名	計画係
課長名	古舘 和好	担当者名	富手 真一	内線番号	3816
評価分類	☐ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☒ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	信頼される質の高い行政	コード	8
	施策	計画的で効率的な行政運営の推進	コード	2
	基本事業	計画行政の推進	コード	1
予算費目名	一般会計 2 款 1 項 6 目 総合計画策定事務 (001-02)			
特記事項	総合計画主要事業			
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 4 年度
根拠法令等	地方自治法第 2 条第 4 項 (～H23. 7)			

(2) 事務事業の概要

基本構想と実施計画からなる「盛岡市総合計画～共に創る元気なまち県都盛岡～」の進行管理を行う。実施計画は、「財政見通し」・「行財政構造改革の方針及び実施計画」との整合を図りながら、毎年度、向こう 3 か年の計画を策定する。

基本構想：どのようなまちを目指していくのかを示し、実現するための行政経営の理念を明らかにするもの

実施計画：主要な事務事業を施策体系別に示し、効果的かつ効率的な行財政運営のもとで、基本構想に定める将来像を具体化するもの

また、盛岡市・玉山村新市建設計画（以下「新市建設計画」という。）の主要事業、盛岡市・都南村合併建設計画（以下「合併建設計画」という。）の未完了事業についても実施計画に包含し、毎年度、未完了事業の進捗状況を把握しながら計画の達成に向けた進行管理を行う。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

長期計画であることから生じる総合計画の硬直化を避け、住民ニーズや財政状況に柔軟に対応し、高い実効性を確保するために、毎年度、向こう 3 年間の実施計画を策定している。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

少子高齢・人口減少社会の到来や社会経済情勢の変化を踏まえ、「選ばれるまち」を目指した施策展開を進めている。

近年の不況による歳入の減少や既存施設に係る耐震改修事業等の大型建設事業が続くことから、事業費の抑制に努めるとともに、行政評価との連動により経営資源を有効活用することにより、事務事業を進めていく上での更なる効率化が求められている。

平成23年 8 月 1 日に施行された地方自治法の一部を改正する法律により、基本構想の必置根

拠が削除された。基本構想はまちづくりの理念や目指す将来像を定め、市町村のすべての計画・事務を統制するものとして最上位の構想に位置づけられてきた経緯があり、引き続き市政運営の基軸として基本構想、総合計画が必要であることから、基本構想については、引き続き議決を経て策定するものとし、当該議決の根拠となる「盛岡市総合計画条例」（地方自治法第96条第2項の規定による条例）を平成25年3月27日に制定した。

新市建設計画については、議会（平成19年9月、12月、平成20年3月、平成21年3月、12月、平成22年9月、平成23年12月、平成24年3月）において、総合計画での位置付けや事業の具体的な進捗状況についての質問が出されている。また、合併建設計画についても、議会（平成21年3月、12月、平成22年9月、平成24年3月、平成25年3月）において、未着手事業の見通し及び進捗状況について質問が出されている。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が、何が対象か）

盛岡市総合計画実施計画、合併建設計画、新市建設計画

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	22年度 実績	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	26年度 見込み
A 実施計画の主要事業数	事業	179	174	175	175	175
B 新市建設計画の主要事業数（ハード事業）	事業	94	94	94	94	94
C 合併建設計画の事業数	事業	136	136	136	136	136

（3）24年度に実施した主な活動・手順

- ① 実施計画（H25-H26）の策定
- ② 実施計画23年度実績の取りまとめ
- ③ 新市建設計画の進捗状況管理及び合併建設計画未完了事業の把握

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	22年度 実績	23年度 実績	24年度 計画	24年度 実績	26年度 目標値
A 実施計画の策定に係る協議回数（ヒアリング回数、審議会開催数、委員会開催数、部内協議回数）	回	30	30	30	37	30
B 新市建設計画の着手事業総数	事業	67	71	76	76	81
C 合併建設計画の未着手事業総数	事業	20	19	19	17	0

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

実施計画が市政運営の基軸となり得るよう高い実効性の保持に努める。また、新市建設計画及び合併建設計画について計画の達成に向けて、未着手事業や実施が遅れている事業の進行管理を行う。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	22 年度 実績	23 年度 実績	24 年度 計画	24 年度 実績	26 年度 目標値
A 実施計画において、計画どおりに完了した事業の割合	□上げる □下げる ■維持	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
B 新市建設計画主要事業の着手率（ハード事業）	■上げる □下げる □維持	%	71.3	75.5	87.2	80.9	96.8
C 合併建設計画の未着手事業率	□上げる ■下げる □維持	%	14.7	14.0	14.0	12.5	0

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	22 年度実績	23 年度実績	24 年度計画	24 年度実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0
	④一般財源	千円	911	853	948	1,071
	⑤その他()	千円	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	911	853	948	1,071
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	930	892	930	957
	B 職員人件費 ⑥×4,000 円	千円	3,720	3,568	3,720	3,828
計	トータルコスト A+B	千円	4,631	4,421	4,668	4,899
備考						

3 事務事業の評価（See）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 有効性評価（成果の向上余地）

総合計画の実効性を高めるため平成23年度から総合計画主要事業の事業規模の調整を当課で行うなど進行管理を強化したが、今後は行政課題を的確に捉えながら限られた資源の有効配分を更に徹底していく必要がある。

また、新市建設計画及び合併建設計画の未着手事業や実施が遅れている事業の課題等を整理する必要がある。

(2) 効率性評価

総合計画書の作成（製本）に当たっては、既に計画書を内部印刷することでコストの削減に取り組んでおり、これ以上の削減は困難である。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 改革改善の方向性

各種事業の進捗状況や新たに実施する事業に関する評価・検討を行い、より実効的な実施計画を策定する。

新市建設計画及び合併建設計画の未着手事業や実施が遅れている事業について、早期の実施に努める。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

① 厳しい行財政の下で実効性の高い実施計画を策定する必要があること。

法人市民税の減少等により歳入が減少する一方、扶助費の伸びにより歳出が増加するなど、今後も厳しい行財政運営が予想される。このことを踏まえ、社会経済状況を的確に捉えつつ、各事業の緊急度、優先度、事業効果等の検証を行いながら、施策の目標達成に向けた計画を策定する。

② 新市建設計画及び合併建設計画未着手事業や実施が遅れている事業について、計画策定時と実施環境が変化しているものがあること。

未着手事業の現状と課題を整理し、課題解決策を検討するとともに、事業の手法についても検討するなど事業の実施に向けた取組を進める。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

厳しい財政状況の中で、行政評価と連動させながら、総合計画関連事業に係るハード事業を当課で配分する方式に平成 22 年度から見直し、当課で緊急度や優先度を見極め、実施計画を策定した。また、実施計画の実績の把握を行い適切な進行管理に努めた。

総合計画は自治体の経営戦略とも言えるもので、市においては行政評価と連動させながら施策、事務事業の重点化を図ってきている。少子高齢・人口減少等、市を取り巻く環境が大きく変化する中で、戦略的なまちづくりを推進していくためには、行政評価のあり方も含め、まちづくりプランの進め方について、関係課と協議を進める。

また、24 年度は、都南村との合併 20 周年を機に都南村との合併建設計画における現時点での評価を行い、今後の方向性を定めた。